

# 茗溪

## 特集

### I もう一步前へ 大震災を乗り越えて II “地域”に立つ

グラビア：01

特集I もう一步前へ

大震災を乗り越えて：02～06

地域と心を一つにして  
大切に生きる

日本は、世界は、“一つ”を実感  
被災した大型加速器と復興プラン

郡司 丈児  
高橋 欣也  
横田 昭彦  
小松原哲郎

特集II “地域”に立つ その2：07～11

筑波大奮闘：12～13

女子サッカー

なでしこジャパン世界制覇と国民栄誉賞：12

2011年パリ世界柔道選手権大会からの報告：13

平成23年度 追悼のつどい：14

茗溪学園だより：15

平成23年度 支部組織表：16～17

茗溪会 学生活動支援事業：18

桐の葉のつどい：18～19

季刊誌「茗溪」などを確実にお届けしたい！：20

追悼録：21

第16回 茗溪・筑波グランドフェスティバルの

ご案内：21

本部だより：22

編集後記：22

meikei

秋  
2011  
No.1071



# もう一步前へ —大震災を乗り越えて



先の『東日本大震災』で、あまりにも大きな災害に遭われた多くの関係者の方々には、心からお見舞い申し上げます。その悲しみや心の痛みをしっかりと受けとめながらも、『明日』に向かって踏み出そうとする姿を、各地から語っていただきました。

左写真は、大津波襲来直後に出現した茨城県大洗港の渦潮（茨城県防災航空班撮影、茨城県大洗町広報担当提供）。このような現象は珍しく専門家の間でも話題になっています。（P.2～6 参照）

## 筑波大 奮闘！

筑波大学学生及び O.B.、O.G のスポーツ面での大活躍が報じられています。

7月17日に国際サッカー連盟女子ワールドカップ2011ドイツ大会で「なでしこジャパン」が歴史的な初優勝し、8月18日に国民栄誉賞を受賞しました。その中に本学大学院生の安藤梢選手と体育専門学群の熊谷紗希選手がおり、大活躍されました。

8月23～28日パリで行われた世界柔道選手権大会には日本代表男女28名中、本学関係者が10名出場し、金メダル1、銀メダル4、銅メダル2を獲得しました。（P.12～13 参照）

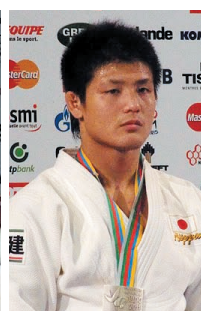
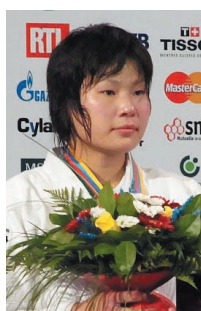
7月22日に筑波大学大学会館の嘉納治五郎像の前で安藤梢選手が山田学長に優勝報告をし、7月28日に雨天のため大学会館内にて熊谷紗希選手が学長に優勝報告をしました。両選手のサイン入りサッカーボールは筑波大学に永久保存されます。



安藤梢選手と山田学長



熊谷紗希選手と山田学長



福見友子選手

佐藤愛子選手

緒方亜香里選手

杉本美香選手

平岡拓晃選手

小野卓志選手

西山大希選手

## 平成23年度茗溪会 追悼のつどい

（P.14 参照）





先の『東日本大震災』で、あまりにも大きな災害に遭われた多くの関係者の方々には、心からお見舞い申し上げます。

その悲しみや心の痛みをしっかりと受けとめながらも、『明日』に向かって踏み出そうとする姿を、当事者の発言や生きる姿としてメディアなどを通して伝えられる私たちは、心引き締まる思いになることが多くあります。

そこで、被災地の茗溪会会員の皆さまにとっての、当日のドキュメントを書いていたいただきながら、被災体験を通してこれから生きていく設計図をどのように持とうとしているか、とくに若者たちが明日をどう描こうとしているか、夢や希望につながる言葉や行動と覚悟を語っていただきました。

# もう一歩前へ

## 大震災を乗り越えて

大洗役場一帯に押し寄せた大津波(茨城県大洗町広報担当提供)

## 地域と心を一つにして

茨城県立那珂湊高等学校 校長  
郡司 丈児 (53 筑一人文)



本校が所在する那珂湊は、近世、東廻り海運の商港として著しく発展、明治から昭和初期までは、酒、醤油、味噌の醸造業と刻昆布製造業により経済力を維持した。この間の有志は商業学校の必要性を感じ、明治34年に町立湊商業学校を設立した。今年百十周年を迎える。本校は、商業学科と普通科からなり、生徒数は580人ほどの中規模校である。校風は大正期頃から受け継がれる「士魂商才」「世界は我が市場」で、近年は韓国への修学旅行、週1日丸々企業で研修するデュアルシステムの導入(商業高校では全国的に稀である)、近隣の商店街が行うドウナイトマーケットへの出店などを行っている。

### 334年ぶりの大津波

那珂湊地方及び隣接する大洗地方は漁業・観光業が主産業で、「大地震は来ない、大津波もない」というのが「常識」となっていた。ところが、3月11日の14時46分、三陸沖を震源とする震度五強(茨城県北部)が発生、その後30分後の15時15分に、茨城県沖を震源とする震度六弱(鉾田市)の地震が起きた。大洗海岸に最大で4.9mに達した大津波は、沿岸部の諸施設や民家に甚大な被害をもたらした。江戸時代の延宝4年と同5年に引き継いで2度の津波があったが、その記憶はほとんどの住民から消えていた。実に334年ぶりの大津波で、那珂湊と大洗の両地域とも、町の目抜き通りの海側はすべて浸水した。

本校は海近くの標高20mの高台に位置し、津波の被害はなかったが、校舎の壁に無数の亀裂が入った。体

育館と本館をつなぐ重層連結廊下は激しく横に揺れて連結部分が落下し、また本館屋上の立ち上がり部分からいくつものコンクリート塊が落下した。生徒は冷静に行動し、1人のケガ人も出なかった。生徒を運動場、そのあと耐震工事を1カ月前に終えたばかりの体育館2階フロアに移動させ、様子を見ることにした。まもなく、有線放送で「津波警報発令、近くの高台にすぐに避難してください」という呼びかけがなされた。「本校は避難所に指定されていないので、本校には避難住民は来ない」と思ったが、「近くの高台」という放送で、200人ほどの住民の方々が本校に押し寄せるように集まった。

しばらくして、最大の第3波が16時50分頃に襲来する見込みとの有線放送が流れたので、このままでは580人も生徒を体育館に泊まらせることになってしまうし、一般住民の方々の対応と両方は厳しいと思った。延宝年間津波から考えて、海沿いを通らないかぎり安全と判断し、第三波が来るまでの約1時間のうちに帰宅させることにした。多くの生徒は、道路の液化化や陥没などはあったが何とか無事に帰宅したが、最終的には16人の生徒が学校に宿泊した。

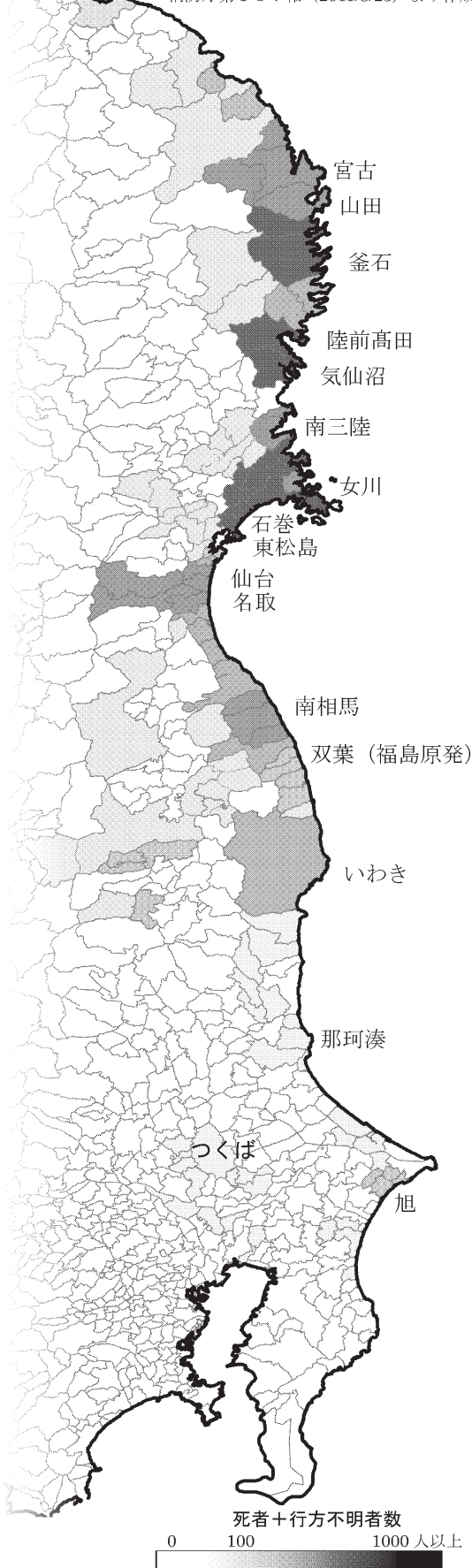
### 合い言葉は“地元愛”

困ったことになった。断水で水は出ず、停電で電気は使えず、トイレもタンクに溜まっていた分は数時間でなくなつた。食糧や毛布が市から届いたのは翌朝のこと、仮設トイレが届いたのは4日後であった。その間、本校にはプールがないため、近くの県立海洋高校の好意により10m潜水訓練用プールから水をいただくことになり、職員数名が軽トラックに10個のポリバケツを積み2度往復して避難住民のトイレ用水とした。数日後には避難住民の数は減少してきたが、昼間は浸水した自宅の片付け、夕方から本校に来て宿泊するという方々が残り、すべての避難民が撤収したのは3月20日であった。

現在、ひたちなか市と協議を進め、本校を市の避難所にしてもらう計画を進めている。本校は、110年前に町の有志の力で創立できた学校である。今日でも多くの卒業生は地域の中で生活しており、地域あつての高校である。

## 東日本大震災被災地図

死者＋行方不明数～市町村別分布  
消防庁第137報（2011/8/25）より作成



5月21日、「合い言葉は『地元愛』」を掲げて、復興イベントと位置づけられたドゥナイトマーケットが行われた。いつもの3倍の人出で賑わい、本校からは10名の生徒が出店して郷土の野菜などを仕入れて販売実習を行った。参加した生徒の1人は、「震災から立ち直ろうと奮起する人々の絆を感じた」といい、またある生徒は、「いつも野菜を買ってくれるおばあさんから、『待ってたよ』と声をかけてもらったのが嬉しかった。町のことを思う気持ちが強くなった。」と感想を述べている。

本県では、本年度から第4次茨城県生涯学習推進計画を進行させ、「新しい公共」の観点から地域の課題解決を図る社会貢献活動を支援することになった。そして、高校の新学習指導要領では、職業に関する各教科の改善事項として、地域産業を担う人材の育成、人間性豊かな職業人の育成を基本とし、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観を身に付けることをあげている。従来、小・中学校に比べて、高校は地域連携という点で「カヤの外」にあり、地域から乖離する傾向にあったと思う。大震災を経験した今こそ、地域が心を一つにして復興に向かって進む時である。その際、高校が担う役割は大きい。本校では、従来から商業学科が行っている長期間の企業実習「みなと版デュアルシステム」をさらに充実さ

## 大切に生きる

宮城県立名取高等学校 教頭

高橋 欣也（56筑体）



せるとともに、地域の繋がりを再構築する事業には、計画段階から積極的に関わる必要があると考えている。

3月11日。宮城県のほとんどの公立高校職員は、3月9日に行われた高校入試の採点等で、校内のどこかに集まっていたのではないのでしょうか。また、学校は休校でしたが部活動は行われていたと思います。

私の勤務する名取高校は岩沼市にあります。平成25年に90周年を迎える普通科6クラス家政科1クラス生徒数830名。太平洋岸からは6.5km程離れた山際にあります。仙台空港までも同距離です。

14時46分岩沼市では震度6弱の揺れが暫く続きました。80名近くの生徒が部活動をしていました。職員が集まっていたこともあり、即座に生徒たちを校庭に避難させる



自宅被災状況（3月29日撮影）

ことが出来ました。生徒たちがケガ等をしていないかを確認し、不安がる生徒たちに落ち着くように話をしました。学校にいる生徒全員が無事であることを確認し、さらに生徒の居住地を確認しました。部活動に来ていた生徒の居住地は、直接的な津波の被害は考えられなかった。ので、帰宅させる方向を決定し職員が手分けして、自宅や最寄り駅等に送ることとしました。17時30分過ぎ、生徒全員を送ることが完了した頃から、学校周辺の人たちが避難場所として岩沼市より指定されている本校に集ま





今年8月18日、茗水会（教育大・筑波大の水泳部同窓生と現役の会）は「がんばろう東北」として盛岡にて開催した。

した。その後、妻とも合流でき、JR常磐線浜吉田駅から1kmほど海側にある自宅に向かいましたが、駅より山側の国道6号線近くまで冠水した状態で自宅まで行くことはできませんでした。仕方なく避難所となっている吉田小学校へ向かいましたが、すでに体育館は避難者でいっぱいでした。校庭の車

つてきました。施設点検で、体育館のコンクリート壁はがれ落ち使用できる状況ではなかったため、被害のなかった武道館を避難所としました。避難者からは、飲み水、トイレや寝具を心配する声が上がりましたが、校内にある給水塔の水、マットや毛布等のあるもので対応すること、特に災害用として備蓄があるわけではないことを説明しました。そのあと継続して避難者が来ることを予想されましたが、本校は内陸にあり津波のさらなる被害は考えられなかったため、私は校長の許可を得て津波被害の地域に入っている自宅へ向かうことにしました。

### 避難者の生活支援活動で

家には、4人の子どものうちで、3月1日に高校を卒業したばかりの末娘がいるはずでしたが連絡が取れず心配でした。途中支援学校に勤務している妻と連絡が取れ、末娘はアルバイトのために亙理のスイミングクラブに行っており無事であることが確認できました。スイミングクラブに向かうと、数名の職員や利用者と共に、駐車場の送迎バスの中に娘はいました。プールの天井が落ち建物は危険な状態だったそうです。娘はクラブに到着する前に地震に遭い、地面に蹲（こた）って連絡のついた次女（神戸市の妻方実家へ旅行中）に無事を知らせたとのことでした。

の中で一夜を過ごしました。ガソリンもあまりない状態だったのでエンジンもあまりかけられず凍えるような寒さと空腹で眠れませんでした。その後の避難所での活動をここで記述するスペースはありませんが、当初避難者は最大で1500名を超えていました。

避難している人たちの生活支援の手伝いを行い、ある程度軌道に乗り、私が学校に戻れたのは17日でした。学校では校長、定時制教頭、事務長を中心に、生徒の安否確認と避難住民の対応が行われていました。その後も確認作業を続け、幸い生徒の死亡はありませんでしたが、家屋流出・全壊等は130名を越え、親を亡くした生徒もいました。平行して3月23日の入試合格発表の業務に追われました。

### 被災体験の昇華、文化祭発表へ

4月21日に始業式。22日に入學式が行われ現在は、生徒・職員が一丸となり例年と変わりなく、いやそれ以上に向上を目指して学校行事等に取り組んでいます。被災者の人々が例年の行事を大切に思い復興を願いながら、可能な限り実現させていこうと取り組んでいるように、生徒自身も学校全体としても一日々々を大切に生きることを一つひとつの行事に再確認して真摯に取り組んでいます。

9月3日は本校の文化祭「名高祭」が行われました。生徒の発表の中には、被災した中学校でおぼえた踊りをクラスの仲間と発表したり、写真や詩であの日の出来事を紹介しているものがありました。生徒の日常生活は震災前とは何ら変わりなく映りますが、生徒自身には生徒の体験があり、今その自分自身が出会った出来事の昇華が進められています。このような動きは被災地の根本となる人の生業（なりわい）であり、それが元気な地域、県、東北、日本に繋がるものと感じています。現在、本校も学校としてのその生業を高めています。

最後になりますが、坂田先生、吉田先生をはじめ茗水会の諸先輩方、同級生後輩たち。また、宮城県茗溪会会長河岸先生をはじめ諸先輩方から激励を頂戴したことに、紙面をお借りして心より厚く感謝申し上げます。

（筆者高橋氏の顔写真―前掲は、全国技能士会連合会マイスター佐々木厚氏の撮影による。佐々木氏は女川町在住だったが現在も行方不明である。）

## 日本は、世界は、“一つ”を実感

岩手県立山田高等学校 副校長

横田 昭彦（53筑体）



岩手県立山田高等学校は、1学年2学級の計6学級、全校生徒数222人、全日制普通科の小規模校である。所在地である山田町は、岩手県沿岸部のリアス式海岸で知られる三陸海岸のほぼ中央部に位置している。山田湾は天然の良港として知られ、湾を取り囲むように1万9千人ほどの町民が農林水産業を基幹産業として生活する小さな町である。ほぼ円形状の入江の中には、大島と小島が穏やかな海面に影を映し、牡蠣やホタテの養殖いかだが整然と並ぶなど、風光明媚な土地である。

私は、この山田町にある本校に平成22年4月に赴任した。教員生活の終盤を生まれ故郷で過ごすことになり「自分を育ててくれたこの町に恩返しをしよう」と心に秘めていたが、まさか在任中に千年に一度とも言われる大災害に見舞われるとは夢にも思わなかった。以下に大震災発生時からの経過を振り返りたい。被災の体験を多くの方にお知らせすることは、体験した者の義務であるように最近強く感じる。

3月11日、午後2時46分大地震が発生した。今までに感じたことのない2分間あまり続く長い揺れだった。この日は、3月1日の卒業式、3月9日の県立高校入學試験などの大きな行事を終了し少しホッとしていた日だった。二日前の入試中にも、比較的大きな地震があり驚かされたが、事なきを得ていた。しかし、これを大震災の予兆と受け止めた人はほとんどいなかった。

## 地震、津波、そして火災発生

震災当日、本校では、二年生の就職コースの特別授業や部活動のため、一部の生徒が登校していた。ただならぬ揺れであったので、生徒、職員に校舎外への避難を指示し安全を確保した。その後、校舎自体には大きな被害が無いことを確認したが、停電、断水、電話等の不通が分かった。情報が得にくい状況の中、車載テレビなどから3mの津波が襲来するとの情報を得た。本校は山に囲まれた高台に在ることから海を臨むことはできないが、津波が押し寄せる心配はなく、生徒には学校を離れず今の場所待機するように指示した。

後日、津波が学校下の上り坂の高い位置まで瓦礫を押し上げていることや、漁港に停泊しているはずの漁船が5mの堤防を乗り越え、町内の郵便局一階の屋上に置き去りになった状態などから、相当な高さの津波だったことを認識させられた。海に面して建っていた本校ボート部艇庫も壊滅的な被害を受けたが、活動中だったボート部生徒に犠牲者が出なかったことは不幸中の幸いだった。地震後、徐々に周辺の住民が避難場所を求めて本校に集まっていたが、まもなく、ずぶ濡れで海水にのめられたものの救助された放心状態の人が運ばれてきた。この事態に接し、町に津波が襲来したことを認識した。この時点で、生徒の下校は無理と判断し、親が直接迎えに来た時以外は下校させないことを職員に徹底するとともに、避難場所を校舎外から第一体育館に変更し、避難町民とともに一夜を明かす態勢を整えた。3月初旬は本校体育館の軒下に約1mの残雪があるなど、まだまだ寒い時期であったので、防寒対策として研修会館の布団、毛布や学校内にあるダルマストープなどを第一体育館にかき集めた。避難者は、ストープを取り囲み、肩を寄せ合うようにして暖をとった。この時点の避難者総数は約300人であった。夜になり暗さが増すにつれ、否応なく、電気がある生活が当たり前の状態に慣れ過ぎていたことに気付かされた。非常時には電気が使えなくなることが多いことを再確認した。今回の停電は以後数日続いた。そしてその日の夜には、もう一つの想定外の出来事が起きた。山田町の中心部では、地震、津波のあとすぐに火災が発

生した。この火災が町の避難所の一つである山田中学校に延焼する危険性が高まったため、山田中学校の避難者約800人が、徒歩約15分の距離にある本校に合流した。さらに翌日は、陸の孤島となった地域から自衛隊のヘリで運ばれてきた約200人の町民を第二体育館、格技場に収容し、総数約1300人となった本校の体育施設は、避難者であふれ返った。こうした中、本校職員は生徒の指導に加えて、大人数となった避難所の運営、生活全般の支援に奔走し、避難所生活が安定するまでの約3週間に渡って学校で寝食をともにした。避難所運営では食料の確保が最重要であったが、まもなく被害の無かつた山側の町民から炊き出しのおにぎりが届き、自衛隊による炊き出しまでの急場をしのぐことができた。学校の調理室は、汁



防波堤を乗り越え、家や車をのみ込みながらせまり来る津波  
(3月11日午後3時25分頃・役場屋上より撮影 岩手県山田町役場提供)

要分を汲み取り使用する方式としたが、被害の無かつた地域から水を運び、一日に数回、大型水槽に補給するなどの作業が必要だった。

本校避難所の運営は、徐々に本校職員から避難者による自治組織に移行させた。そして学校職員は学校業務に専念し、約1カ月遅れの4月下旬に始業式や入学式を行い、学校再開を果たした。最終的には、学校と避難所との共存状態は8月30日まで続いた。これらの経験から、学校への避難所設置を想定した防災組織や計画の見直し、施設・設備の整備、備蓄など学校の防災拠点化は重要な課題であると認識した。

### 地域復興に向けて

住居の全壊・半壊、住居の全焼・半焼、住居の流失、世帯収入の著しい減少の4項目に該当する生徒・保護者は、実に全校生徒の62%に達している。このため学習や部活動などの学校生活に要する経費の徴収が厳しい状況にあり、この影響の長期化は必至である。

悲惨で厳しい状況ではあるが、明るい表情を絶やさず大きな希望を秘めている生徒たちに、昨年度と遜色のない学校生活を保障するため、職員一丸となって全力を傾注したい。そして、逆境の中でも全国レベルを必死に維持しようとしているボート部をはじめとする部活動での活躍、生徒会を中心にした仮設住宅生活者への支援や復興を考えるなどの文化祭における企画、生徒の進学や就職の進路目標の100%達成など、一つでも多くの明るい話題を町民に発信し地域の復興に貢献したい。

最後になりましたが、ご支援を賜りました全国の方々に御礼を申し上げます。皆様の支援により勇気づけられました。まさに「日本は、世界は、一つ」ということを実感させていただいた日々でした。



# 被災した大型加速器と復興プラン

筑波大学研究基盤総合センター  
応用加速器部門 講師  
小松原 哲郎（57 筑一自）



平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0の観測史上最大の大きさの地震であった。10mを超える大きな津波が発生し、岩手県や宮城県、福島県を中心に死者1万5千人、行方不明者5千人の甚大な被害が発生した。多くの尊い命が失われ、また、多くの方々が被災し避難生活を送っている事、心からお見舞い申し上げます。

つくば市は震源から遠く離れていたが、震度6弱と揺れは大きく、特に横揺れが強かった。日本家屋の瓦屋根が落ちたり、大学図書館の本棚が倒れたり、様々な被害が発生した。我々の実験室でも静電加速器が被災し、修理不能に陥っている。

## 最先端科学をになう加速器が崩落

筑波大学研究基盤総合センター応用加速器部門では、筑波大学の開学時に設置された12UDペレットロン静電加速器が稼働していた。開学当初は、「加速器センター」の名称であったが、最大加速電圧1千200万ボルト（12MV＝メガボルト）のタンデム型静電加速を駆使し、水素イオンから金イオンまで多種多様なイオンを加速し様々な共同実験が実施されていた。

地震発生時、加速器は運転中であった。ターミナル電圧8MVで<sup>41</sup>Ca（カルシウム）の放射性同位体、半減期10万年）の加速器質量分析のためのテスト実験を行っていた大きな揺れは、直径4.8m、高さ17.9m、重さ120トンの加速器タンクを揺さぶった。加速器棟（写真および断面図参照）は9階建てで、加速器は4階から7階にわたり縦向きに設置されているが、高さが高いほど揺れは大きかつ

た。7階の加速器タンクの支え板は吹っ飛び、直径2.5cmのアンカーボルトは9本中8本が引きちぎられた。内部の加速構造はバラバラになり、24層構造の加速構造体は完全に崩壊した。9階にはイオンビームを生成するイオン源が設置されていたが、こもも被害が大きかった。偏極イオン源の電磁石（ウイーンフィルター）が架台ごと揺れ動き、コンクリートに固定していたボルトがすべて引きちぎられた。実験室では、核磁気共鳴用マグネットが転がり落ち、下にあった脚立がグニャグニャになった。また、メスバウアー装置では高圧ガスボンベがボンベスタンドごとひっくり返った。これだけ大きな被害がありながら、人的被害がなかった事は非常に幸運であった。

## 大型実験装置の役割を議論

静電加速器の復旧にあたり、大型実験装置としての役割が議論された。この加速器は当初から原子核物理学分野の最先端の実験装置であり、偏極核反応やガンマ線核分光などが盛んにおこなわれていた。一方、建設以来35年経過した現在でも加速器のニーズは衰えることなく、応用的利用が活発に行われている。年間運転時間は3500時間にのぼり、加速器質量分析、陽子弾性散乱同時計数法による水素分析、金イオンビームによるナノ精度

加工、宇宙元素合成の基礎的研究など、研究利用範囲が拡大しつつあった。さらに、文部科学省の最先端設備共用促進事業に採択され、民間企業の利用も行われていた。

## 復興プランでは横置きに、新しい可能性を

この様に現在でも活発に利用されている実験装置であったため、大学本部の理解が得られ、震災復興予算はほぼ申請通り採択された。

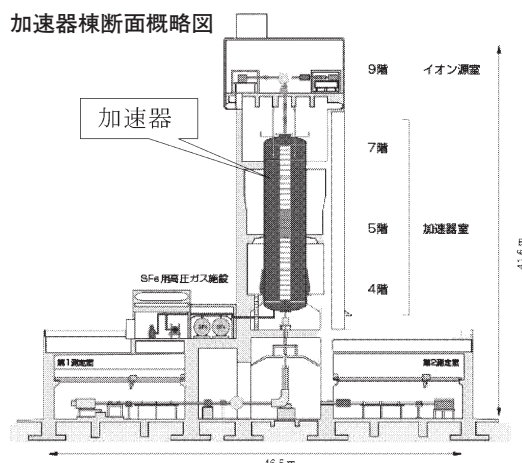
今、復旧計画として描かれているプランは、やや規模を縮小した最大加速電圧6MVの横置きタンデム型加速器である。耐震性を考慮し横型を選択した。現在の第二測定室に設置し、ビームラインを第一測定室へ導く計画である。新しい加速器は、加速器質量分析の機能が充実される予定である。入射側に設置された電磁石の真空箱は、電圧がかけられる様に工夫されており、異なる同位体を交互に素早く切り替えて入射できる様に工夫されている。また、ラザフォード後方散乱測定およびチャネリング測定が可能なイオンビーム照射装置も設置する予定である。原子核分野の研究では、偏極ビームによりスピンの測定が計画されている。

イオンビームを用いた応用的研究は、原子核物理学にとどまらず、精密分析やクラスタ加速、ナノ精度加工など、今後益々発展する事が期待される。環境科学や地球科学への応用や、さらに、学術・産業共用促進事業の展開により、広く産業界にもニーズが拡大されると期待される。

この新しい加速器は納入に最低1年以上かかるが、実は、本部門には小型の加速器がもう1台あり、こちらは大地震の揺れにも耐え既に運転再開して実験に利用されている。



加速器棟断面概略図



## 特集Ⅱ



### はじめに

前号（NO.1070）の特集Ⅱにおいて、平成21年・茗溪会顕彰で顕彰対象とされた東京・下北沢南口商店街の「落書き消し隊」のその後の活動状況を、同商店街の吉田理事長に紹介してもらったのに合わせて、その活動の原動力となっている林副理事長の人となりについて触れた。

それは、お二人がそれぞれに過ごされた「時代」や、いま住む「地域社会」に対しての共通する思いが底辺にあつて、その地域への「住み心地」が問われる結果が、それぞれの今日を作り出しているのだと思われる。

それらの思いの底辺にある人間的な感覚に触れる意味で、同趣旨を考えの中心において、主婦の人見さんに、「思つまま」を書き留めていただいた。

今回は、同じテーマで、発言者が生まれた故郷への思い、から「地域での生活」「地域社会との共存」をはじめ、また、学問・研究のために在学する大学を中心に、「知」の故郷とする「つくば」についての個人的な「思い」や、住民の一人としての参加観や貢献度、また同時に、市民として享受したい安心・安全な暮らしや、「住み心地」、また、一般地域住民との共生、共存く隣人としての等に見る多くの現状や課題等を見つめて頂く。

特に、ここでは、筑波大学を卒業するか、あるいは大学院を修了して教員志望を持つ人たちの「これから」について、話し合ってもらった。また、話の進め役として、財団法人・筑波学都資金財団・筑波研修センターの飯村省一所長（人文地理専攻）に加わって頂いた。

（文中・敬称略）

### 「筑波」に立つ

飯村省一 今日、筑波大学の学生、大学院生の5人の方に集まって頂き、皆さんに、いままで過ごした「筑波大学」を含めた「つくば」のこと、これから羽ばたいていこうとする地域への思いなどを語って頂きます。



飯村 省一（いひむら しょういち）

出身地：茨城県下妻市

- ・東京教育大学理学部地理学専攻
- ・元茨城県立高校長
- ・果樹花木の栽培

### 地縁、知縁、人の縁ー人とのつながり

飯村「縁」とは、仏教でも大切にしている「概念」で、不思議なものです。

生まれも育ちも異なる人が、ここにこうして集まっています。これも縁です。

しかも、ここに同席する若い皆さんは、同じ筑波大の「茗溪の水」を飲んだ者ばかりです。

それでは、ここにいる皆さんは、何故「筑波大」を選んだのか？そのあたりから、話を進めていきましよう。

今 美佳 「筑波」を選んだきっかけは、高校時代の先生方に、筑波大出身の教師が多かった。その先生方に惹かれたからです。特に高校3年生の時に、筑波大出身の先生が担任され、その先生に感化されました。ですから、筑波大学への進学は、その頃から目指したものです。



山下 咲子（やましたさくこ）

出身地：岐阜県高山市

- ・県立斐太高校
- ～筑波大社会・国際学群
- ・応援団チアリーダー



今 美佳（こん みか）

出身地：静岡県富士宮市

- ・県立富士高校
- ～筑波大社会・国際学群
- ・ヴァイオリン演奏、コンサートマスター



**山下 咲子** 「筑波大学」を選んだ理由は、まず、高校時代の担任の先生が、筑波大学の出身で、その先生から強く薦められたからです。

**中山つくし** 大学は東京都内の法政大学ですが、大学院は筑波大学院で学びました。それは、自分の目指す研究分野が幅広く学べるという理由からです。

また、「筑波大学」は、子供の時から夢見ていたところですし、具体的には高3の頃からです。



**中山つくし** (なかやまつくし)  
出身地：茨城県つくば市  
・県立竹園高校～法政大工学部～筑波大学院（博士課程）情報工学研究科  
・カメラ、ダンス、水泳、スキー

**下村 和裕** 筑波には大学院からです。

筑波大学は図書館の蔵書の数も揃っていて、その上学習環境や外国人の数も多く、取り巻く自然環境も良いので選びました。

筑波大学は子供の頃から目指していましたが、大学院へ入ることで、まず最初の目的が達成されました。  
**小林 知弥** 私は「ふるさと指向」なので、「筑波大学」を、高校3年から目指しました。



**下村 和裕** (しもむらかずひろ)  
出身地：茨城県阿見町  
・県立牛久栄進高校～東洋大文学部教育学科～筑波大学院（修士課程）教育研究科  
・カメラ、読書、マラソンほか



**小林 知弥** (こばやしともや)  
出身地：茨城県水戸市  
・私立水城高校～筑波大第三学群工学システム学類  
・服縫製ほか

**飯村** 山下さんは岐阜県高山の出身で、近くには有名な名古屋大学等もあるのに、何故そこを目指さないで「筑波大学」を目指したのですか？

**山下** 父が『どうせ目指すなら、首都圏を「目指せ」と励ましてくれました。それなら父の薦めのように、首都圏を目指そうと頑張りました。

私自身も、地元から「外」へ出たかったから、目標を「筑波大学」にしました。

**中山** 若い頃は法政大を目指し4年間通いましたが、矢張り、故郷指向で「ただいま」と言つてこの筑波に帰つて来たわけです。

**下村** 私も筑波へ帰つて「筑波」の魅力を感じました。図書館の内容の豊富さ、留学生をはじめ、外国人と接する機会も多く、これらの出会いを「知縁」と言うのでしょうか――。

## 「筑波大」に入学して初めに感じたことは？

**飯村** 筑波大学に入学して、初めに感じたことはどんなことでしょうか？

**下村** 筑波に入学してまず最初に感じたことは、周囲の人々の学習意欲です。「学び」への意欲、深さに感銘し、刺激されました。「知縁」を得たということを感じたのは、そんなことです。それが東京だと、いろいろな誘惑があるのに対して、筑波大学は「学習」に集中できる環境でした。

学生宿舎では、バングラディッシュや韓国からの留学生との交流が出来て、『異文化』に触れることができました。

学生宿舎のことをいいますと、ここでは、単に、住まいを提供されているというだけではなく、精神的にも快適な環境が宿舎管理の側から安全という視点も含めて自己学習のために整備され、また、宿舎に住む者たちどうしによる自主的な住環境が守られています。

「やどかり祭」等にも見られるように、宿舎に住み合う者に心の交流も出来て、「隣人」意識も高められました。異文化交流にも恵まれ、その上、宿舎を管理する側が、実務的な面ばかりか、管理する面での責任者が同窓の先輩であるということと同時に、教育者としても優れた経験者として、私たちの進路を含めて、親身になって面倒を見て下さっています。

こんなことは、普通の、例えば「高級な」設備やサービスがあったとしても、民間の単なる「間借り」や下宿」等に見られる営業感覚一辺倒の経営体では見られないものがあります。

民間の、たとえばワンルームマンションに住んでいる学友たちが口を揃えて言っていることでもあります。

## 「人の縁」に触れる

**小林** 筑波大学は、サークルへの加入率が、他の大学に比べて高いのではないのでしょうか。学生どうしに濃密な人間関係があつて、それが今なお生き続けているように思えます。高校時代は人見知りだった自分が、いまでは「人」が好きになりました。飯村所長が言われた「人の縁」を得ました。

**今** 筑波大学で得たものとしては、矢張り「人脈」だと思います。人脈が豊かになったような気がします。そして、多様な価値観を認められるようになりました。これも「人の縁」だと思います。また、海外へ飛び立って異文化の中で学んでみたいという意欲も沸きました。これも、「筑波」で得た留学生の仲間との交流のお

蔭だと思えます。

でも、留学生が多いということは、一層、お互いに助け合いが重要だとも実感しました。

中山 私も大学のゼミで「恩師」として尊敬できる指導教官に出会うことが出来ました。

また、そのゼミでは沢山の友人たちとのふれあいや、いろいろな「違う考え方」を理解できるようになりました。

また、大学院に入って、先生方の「研究熱心さ」に驚きました。学問研究とはこういうことなのかということ、人生での大発見でした。

私も沢山の留学生の仲間に出会うことが出来ました。私の「財産」が増えたような気持ちになって嬉しい限りです。当然のことでしょうが、留学生の仲間との間での会話は、英語が国際語として日常的に使われています。

## 新しい街・つくば

飯村 この「つくば」という町は、筑波研究学園都市としての「機能」が先に設定され、後から地域社会が成立して出来上がった町です。

開発が始まるまでは、広大な平地林の間に集落が点在する一面の農村地帯で、そこに、筑波大学をはじめ各種の国立の研究機関が移転してきました。そしてこれらの機関や施設に勤務する人たちが、また、その家族の方がたが住む町として開発されました。

つくばに限らず、新しく開発された地域では、日本中いたる所で大規模な人口流入現象が起きました。そんな地域では、どこでもその地域に住んでいた人々いわゆる「旧住民」と、新しくその地に移り住んできた「新住民」との融和が課題だったと思います。職業や生活習慣・生活感覚がまるで異なる住民たちが、お互いが馴染み合うために大変な努力を重ねる、例えば、その地に伝わる「祭り」や各種の行事に参加して一緒に言うとか、いろいろな知恵を出し合って「新しい地域

環境」づくりに努めるといった話はよく聞くとこです。

このつくばでも、「移り住まれた」旧住民の側から見れば、広大なスペースを持つ「国立」の、あるいはそれに準ずるスペースを占める地域、いわば生活基盤の全く異なる住民同士が、隣人としての共助、共生等どのように住み合っているのかということ、大きな課題だったろうと思います。

身近に例をとって言えば、大学や諸機関が地元の行政と共同して、将来社会のために継承されるような行事（例えば「祭り」とか、文化財の公開を行うとか、あるいは、地元住民も参加する学生宿舎の「やどかり祭」を開催するとかといった、お互いが、「この地域の住民」として馴染み合う「知恵」を出し合うことによって、将来的にも永続する、新しい街づくりをしながら「地域の充実」を図って行きたいものです。

今ですから、今はまだ、現在の姿での歴史を語り継ぐことは出来ないと思います。

でも、新しいからこそ、これから益々発展して行くエネルギーを感じる町でもあるわけです。私は、この「可能性」を秘めた町が好きです。

いまの若い世代が、この「つくば」の歴史を、後世にどのように伝えていくか興味があります。いや、伝えていかなくてはならないと思います。

中山 私は6歳の時からこの地で育ちました。自然環境的には何も変わりませんでした。しかし、研究学園都市としての開発が進み、科学万博が開催されたり、「つ



くばエクスプレス」が開通したり、人工的な環境は随分と変わりました。

下村 東京の殆どの大学には「塀」があります。それに

対して、筑波大学には塀がありません。

山下 大学には囲いが何もないので、環境的には、公私

の別をつけにくい感じがします。

小林 自分は自動車や自転車に乗らないで「歩き」で生活しているの、キャンパスが広過ぎて不便、非効率を感じます。言ってみれば、歩き疲れるくらいですね。

また、この町は、生活的にはいわゆる「チェーン店」が多い感じがします。もっと、個人経営の店があつて





いつもなら、筑波大にはたくさんの留学生がおりますので、こういう光景はそんなに珍しいことではありませんが、震災後は、多くの留学生が緊急避難のために帰国しておりその姿が少なく、そのために、バス停にいた彼等の姿が私の目に留まったのでしょうか。私は、彼等に聞きました。

「あなたたちは帰国しないの？」

ゴンザレス君は黙

## 異文化の中の共通認識

今 私は、出身地が田舎なので不便は感じませんが、夜の町が暗過ぎますね。街路灯も少なく、安全面では危ない場所もあります。ですから、不安感があります。

下村 帰もない大学キャンパスはオープンです。そのためか、筑波大生は町中をわが物顔でかつ歩しています。

飯村 3・11の東日本大震災のあったすぐあとの事です。が、ガソリン不足から、私は、私の住む「下妻」からバスで勤務先まで往復しておりました。

そんなある日、大学前のバス停で、二人の留学生に出会いました。ベネズエラの男子学生ゴンザレス君とインドネシアの女子学生のメイデイさんの二人連れでした。



つていたのですが、メイデイさんは、母親は早く帰国して欲しいと心配されておられたようですが、父親から「つくばでお世話になっているのだからその地に留まって、お役に立つことをしなさい」と言われたそうで、ニコニコしながら「別に怖くはないです」と話してくれました。二人はつくばに愛着を感じているからこのような行動がとれるのだと思いましたね。これもつくばで育まれた「地縁」であり「知縁」なのでしょう。私はその時、他国の地の緊急時にあって、異文化の中で生まれ育った人であっても、人間としての冷静で知性豊かな判断というものは共通するものなのだと、しみじみと感じました。

また、インドネシアの父親の見識にも感心しました。小さいながらも二つの国を結ぶ「絆」ですね。

他の国の文化や認識の仕方を、表面的に単なる知識として捉えるよりは、直接に接して実感することの素晴らしさを知りました、これも、多くの国から留学生を迎え入れている筑波大ならではのことだと思います。何気ない出会いの中で感じる素顔の大切さも知るこ



とが出来ました。

この部屋で同席している若い皆さん方から、留学生の人々との出会いから得たこと感じたことを話してもらいましたが、多分、それは私が感じたことと同じ感覚ではないかと思っています。

## これからの“夢や希望”を話そう

飯村 今日、この話し合いに出席した皆さんは、みな、教員志望の皆さんです。

毎年春に、社団法人・茗溪会（筑波大学同窓会）が、筑波学都資金財団と共催で行っている就職受験研修会に参加した方々の中から出席してくれた有志の皆さんです。



ここで皆さんに、これから就職したい地域への夢や希望について話して頂きましょう。

**山下** 「筑波」に住んだからこそ、生まれ故郷の「岐阜」に帰っていろいろと考えてみたいと思いました。そんな私を育ててくれた「筑波」は「人を育てる」ためにも、もっと豊かになってほしいものです。

**中山** 私にとってこの地では、幅広い知識や交流の経験が出来たので、今後ともこの地で暮らして、これらの経験を、もっと活用して行きたいと思っています。

**下村** 「筑波」で、地域に根ざした生活リズムを得られたので、学び得られたものをもっと広げたい。

**今** 静岡県は私の出身地で、小学3年生から高校卒業までおりました。ですから、これからは中等教育の大半を過ごした静岡県の教育に貢献したいと思っています。静岡の学生たちには、富士山をはじめ独自の文化や

風土を大切にし、自分の育った地域に誇りをもってもらえるような人になつてもらいたいと思います。

**山下** 岐阜県は私の生まれ育ったところです。子どもの頃に外で遊んでいると、何時も誰かに「さきちゃん」と声を掛けてもらいました。家族だけではなく、地域の方々に育てて頂いたという意識を強く持つて来ました。

そのため岐阜県に戻り、私を育ててくれた街に恩返しをしたいのです。

**中山** 私自身、長年育った、自然と調和したこの住みやすい場所です仕事に就きたいと思っています。

子ども達にも茨城県が好きになつてもらえるように努力したいのです。

**下村** 私は、生まれも育ちも茨城県なので、茨城の発展のために貢献できるよう、豊かな人材の育成のために寄与したいと思っています。

**小林** 私は横浜市で就職したいと考えています。

横浜市は、地域に開かれた学校づくりの取組みが多く行われているところです。さらに、家庭や地域の教育への関心が高いため、やりがいがあるところだと感じています。

「横浜教育実践フォーラム」に参加して、開場を待つ間、保護者どうしが教育について語り合っていることに衝撃を受けました。

また、横浜は観光だけに力を入れているのではなく、そこに住む住民もまた横浜に魅力を感じている人々が多く、そんな人々と一緒に、よりよい横浜をつくって行きたいと思っています。

**飯村** 今日、『つくば』を中心に、皆さんが何時も感じていたことから、これからの「生き方」にまで話を進めて頂き、幅広いお話を聞かせてもらいました。

これからの夢多い人生を笑みあるものとして、心豊かに過ごして下さい。ご健闘を念じます。

長時間ありがとうございました。

(この座談会は、8月25日に筑波研修センターで取材したものです。)



(財)筑波学都資金財団・筑波研修センターの一部

| 筑波大学・つくば市・茗溪会 関連年表      |                                          |
|-------------------------|------------------------------------------|
| 昭和48(1973)年10. 1        | 筑波大学 茨城県桜村に開学<br>(当時 桜村の人口9,909人)        |
| 昭和49(1974)年 4. 25～5. 11 | 第1回入学式挙行(学群生734人)                        |
| 昭和50(1975)年 2           | 筑波新大学資金財団を筑波学都資金財団と改称                    |
| 11. 1                   | 第1回学園祭(紫桐祭)開催                            |
|                         | 第2回から「雙峰祭」と改称                            |
| 昭和51(1976)年 3. 25       | 平砂・追越学生宿舎完成                              |
| 昭和54(1979)年 4.          | 茗溪学園開校                                   |
| 昭和60(1985)年 3. 16～9. 16 | 科学万博開催                                   |
| 昭和61(1986)年 7. 30       | 桜村の人口4万人突破                               |
| 昭和62(1987)年11. 30       | 豊里町・大穂町・桜村・谷田部町が合併して「つくば市」誕生             |
| 平成8(1996)年 1. 6         | 第1回「茗溪・筑波グランドフェスティバル」開催                  |
| 平成14(2002)年10. 1        | 図書館情報大学と統合                               |
| 平成15(2003)年10. 1        | 筑波大学開学30周年(創基131年)記念式典                   |
| 平成16(2004)年 4. 1        | 国立大学法人筑波大学発足                             |
| 平成20(2008)年 1. 26       | 総合交流会館内に茗溪会筑波事務所開設                       |
| 平成23(2011)年             | 筑波大学(学群生9,971人 大学院生6,805人)つくば市人口215,712人 |



国民栄誉賞の受賞などで大きな話題となっている女子サッカーワールドカップで初優勝し世界チャンピオンに輝きました「なでしこジャパン」に、2名の筑波大学の学生がいます。

女子サッカー日本代表チーム「なでしこジャパン」は、2011年7月17日（日本時間では7月18日早朝）に、FIFA（国際サッカー連盟）女子ワールドカップ2011ドイツ大会で初優勝し、世界チャンピオンになりました。8月2日には枝野官房長官からなでしこジャパンに「国民栄誉賞」を与えることが発表されました。表彰する理由については、「最後まであきらめないひたむきな姿勢で国民にさわやかな感動と、東日本震災などの困難の中で困難に立ち向かう勇気を与えた」と、なでしこジャパンの功績を讃え、2011年8月18日に内閣総理大臣（首相）官邸にて「国民栄誉賞」を授与されました。

予選リーグ3試合では、ニュージーランド（2-1）、メキシコ（4-0）、イングランド（0-2）と2勝1敗、勝ち点7点、2位で通過して、決勝トーナメント3試合を勝ち抜きました。準々決勝では地元デュイスブルクFCに所属する安藤梢（あんどう こずえ）選手の活躍で、0-0からの延長戦で120分間の死闘の末、ワールドカップの世

界チャンピオンであり開催国である強豪ドイツに1-0ではじめて勝ちました。この日誕生日を迎えた安藤梢選手は、ワールドカップで優勝するためにドイツの強豪クラブへ移籍し、ドイツでドイツ代表チームに勝利し、生涯忘れることのできない1日となりました。続く準決勝では、古豪スウェーデンに1失点から3得点して大逆転の3-1で勝ちました。

決勝では、オリンピックの世界チャンピオンであるアメリカに1-1からの延長戦で2-2と追いつくシーソーゲームを展開しました。PK戦2-1の決めれば勝利の4人目のキッカーとして熊谷紗希（くまがい さき）選手が登場しました。ゴール左上の最も難しい所に豪快にシュートを決めました。PK戦の末（3-1）はじめて勝利して、見事に初優勝の世界チャンピオンに輝きました。

安藤梢選手は、7月22日に筑波大学の学生会館の嘉納治五郎像の前で学長に優勝報告をしました。熊谷紗希選手は7月28日に、雨天のため学生会館内で行いました。サインボールは筑波大学に永久保存されます。

なでしこジャパンのPK戦の最後のキッカーのセンターデフエンダー、背番号4番の熊谷紗希選手は、筑波大学の体育専門学群3年生で、弱冠20歳です。全6試合にスターティングメンバーで出場したセンターフォワード、背番号7番の安藤梢選手は、筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻3年生（後期博士課程）です。

西嶋尚彦（55筑体、57筑修教、62筑博教）

#### 安藤 梢（あんどう こずえ）

平成13年4月

筑波大学体育専門学群入学

平成17年4月

国立大学法人筑波大学大学院

人間総合科学研究科体育科学専攻入学  
研究テーマ…コンピュータ適応型テスト  
によるサッカー戦術技能の達成度評価

#### 表彰「国民栄誉賞」

2011年度 女子サッカーワールドカップ、優勝

#### 表彰「学長賞」

2004年度 アテネオリンピック、ベスト8  
2008年度 北京オリンピック、ベスト4

#### 社会貢献活動

2009年 「とちぎ未来大使」、栃木県知事

2010年 ドイツ国際平和村（戦争孤児施設）訪問

2011年 東日本震災へのチャリティ活動、3,000ユーロ寄付

#### 熊谷紗希（くまがい さき）

平成21年4月

筑波大学体育専門学群入学

#### 表彰「国民栄誉賞」

2011年度 女子サッカーワールドカップ、優勝

#### 表彰「学長賞」

2009年度 東アジア大会優勝  
AFC-U19女子サッカー選手権  
2009中国、優勝、キャプテン

2010年度 アジア大会優勝  
FIFA-U20女子ワールドカップ  
2010ドイツ出場、キャプテン

今後のご活躍を心より期待します。

#### ◎熊谷紗希選手 競技歴

「なでしこジャパン」:

2007年(高校2年)で代表デビュー、2008.3.7カナダ戦、キプロスカップ  
2008年(高校3年) 北京オリンピック、候補(バックアップメンバー)  
AFC女子アジアカップ2008ベトナム大会、3位(銅メダル)  
2009年(体専1年) 東アジア大会、優勝(金メダル)  
2010年(体専2年) 第16回アジア大会2010中国広州、優勝(金メダル)  
AFC女子アジアカップ2010中国、3位(銅メダル、ワールドカップ出場権)

2011年(体専3年) 第6回FIFA女子ワールドカップ2011ドイツ、優勝(金メダル)  
競技歴「ヤングなでしこジャパンU20」:

2007年(高校2年) AFC-U19女子サッカー選手権2007、準優勝(銀メダル)  
2008年(高校3年) FIFA-U20女子ワールドカップ2008チリ、ベスト8  
2009年(体専1年) AFC-U19女子サッカー選手権2009中国、キャプテン、優勝(金メダル)  
2010年(体専2年) FIFA-U20女子ワールドカップ2010ドイツ、キャプテン、予選リーグ敗退

競技歴「ドイツ・ブンデスリーグ」:

2011年(体専3年) 2011.7移籍「1FC フランクフルト」

#### ◎安藤 梢選手 競技歴

「なでしこジャパン」:

1999年(高校2年生)で代表デビュー、第3回FIFA女子ワールドカップ1999アメリカ大会  
2004年(大学4年)アテネオリンピック、ベスト8(入賞)  
2005年(院1年) 東アジア大会、3位(銅メダル)  
2006年(院2年) アジア大会、2位(銀メダル:アジアカップ、4位)  
2007年(院3年) 第5回FIFA女子ワールドカップ2011中国大会、予選リーグ敗退  
2008年(院4年) 北京オリンピック、4位(入賞):アジアカップ、3位(銅メダル)  
2010年(院5年) アジアカップ、3位(銅メダル)  
2011年(院5年) 第6回FIFA女子ワールドカップ2011ドイツ、優勝(金メダル)

競技歴「ドイツ・ブンデスリーグ」:

2010年2月後期シーズンにデビュー、「FCR2001デュイスブルク」、ヨーロッパ・チャンピオンズリーグ、ベスト4:ドイツカップ優勝:リーグ2位  
2011年 ヨーロッパ・チャンピオンズリーグ、ベスト4:リーグ3位

## 2011年パリ 世界柔道選手権大会 からの報告

2011年パリ世界柔道選手権大会は、8月23～28日、フランス・パリのベルシー総合体育館において、131カ国、864名（男子510名、女子354名）が参加し、盛大に開催された。

今大会に出場した日本代表28名（男子14名、女子14名）中、男子6名、女子4名、計10名が筑波大学関係の選手であった。

### 男子

60 kg級 平岡 拓晃（了徳寺学園・大学院体育2年） 銀メダル

66 kg級 森下 純平（体育専門学群3年） 3回戦敗退

73 kg級 秋本 啓之（了徳寺学園・大学院体育2年） 5位

81 kg級 高松 正裕（桐蔭学園教員） 2回戦敗退

90 kg級 小野 卓志（了徳寺学園・大学院体育2年） 銅メダル

90 kg級 西山 大希（体育専門学群3年） 銀メダル

### 女子

48 kg級 福見 友子（了徳寺学園） 銀メダル

57 kg級 佐藤 愛子（了徳寺学園・大学院体育2年） 金メダル

78 kg級 緒方亜香里（体育専門学群3年） 銀メダル

78 kg超級 杉本 美香（コマツ） 銅メダル

60 kg級に出場した平岡は、これまでの世界選手権では銀メダル、銅メダルを獲得しており、今大会では何が何でも金メダルをと意気込んで大会に臨んだ。平岡は順当に勝ち進み、決勝で前年の世界チャンピオンであるウズベキスタンの選手と対戦した。見応えのある決勝戦であったが、試合終了間際に「技あり」を奪われて敗れ、惜しくも銀メダルに終わった。

66 kg級に出場した森下は、昨年の世界チャンピオンであり、連覇が期待されたが、3回戦でモルドバの選手に不覚をとり上位入賞を逃した。

73 kg級に出場した昨年の世界チャンピオン秋本は、連覇の可能性が高いと思われたが、準決勝の日本人対決で中矢（東海大学4年）と対戦し、優勢に試合を進めながら一瞬の隙をつかれて敗れた。さらに、3位決定戦でもウズベキスタンの選手に逆転負けを喫しメダルを逃した。

81 kg級に出場した高松は、層の厚いこの階級で昨年銅メダルを獲得したベテランである。今大会でもメダル獲得が期待されたが、初戦で韓国選手に破れ、上位進出はならなかった。

90 kg級には、小野、西山という桐蔭学園、筑波大学の先輩、後輩が出場した。共に順当に勝ち上がり、準決勝で両者が対戦し、西山が「指導」2対1という僅かな差で勝って決勝進出。小野は3位決定戦に回った。3位決定戦で韓国選手と対戦した小野は、相手に「有効」、「技あり」を奪われながら、終盤に起死回生の内股「一本」で逆転勝ちし、銅メダルを獲得した。一方、前回大会決勝と同じギリシャ選手との対戦となった西山は、またしても力技にねじ伏せられ「一本」負け。惜しくも、2年連続の銀メダルに終わった。

48 kg級に出場した福見は、2009年の世界チャンピオン。しかし、昨年は決勝の日本人対決で浅見（コマツ）

に敗れて銀メダルに終わり、今年はそのリベンジが期待された。予想通り、両者ともに順当に勝ち上がり、決勝で顔を合わせた。試合は、常に浅見が先に仕掛け、福見がそれに応じるといふ展開。先に福見に「指導」が与えられ、流れは完全に浅見ペース。終盤、場外際の浅見の大内刈が「有効」となり、そのまま時間が経過して試合終了。浅見が2連覇を達成した。福見にとっては、悔しい銀メダルとなった。

57 kg級に出場した2007年リオデジャネイロ世界選手権の銅メダリスト佐藤は、北京五輪で大怪我をして手術、リハビリを経て大舞台にカムバックしてきた選手である。年齢的にもベテランの域に入り、この大会で思うような結果が出せなければ引退するという覚悟で大会に臨んだ。佐藤は、落ち着いた試合運びで順当に勝ち進み、準決勝で前年の世界チャンピオン松本（フォーリーフジヤパン）と対戦した。この試合、先行したのは松本の方であったが、慌てることなく自分の柔道を貫いた佐藤は、逆転の「一本」勝ちで決勝進出。決勝もブラジルの選手に背負投で「一本」勝ちし、世界チャンピオンとなった。見事な復活であった。

78 kg級に出場した東京大会銅メダリストの緒方は、今大会好調で危なげなく決勝に進み、地元・フランスの選手と対戦した。今までの対戦では負けたことのない相手であったが、組み手争いの一瞬の隙をつかれ、出足払で「一本」負け。金メダル獲得はロンドン五輪に持ち越したくなった。

昨年の東京大会で78 kg超級と無差別の2階級を制した杉本が、78 kg超級に出場し連覇に挑戦したが、中国選手に準決勝で敗れ、まさかの銅メダルに終わった。

来年のロンドン五輪には、1人でも多くの筑波大学関係者が出場し、1つでも多くのメダル獲得を期待したい。  
筑波大学柔道部総監督 岡田弘隆（1筑体、5筑修体）



平成二十三年度

「追悼のつどい」開催

茗溪会では、明治18年（1885年）以来、平成17年まで、神式で物故者の「合同慰霊祭」を実施してまいりました。

平成18年からは九月に宗旨・宗派を超えた「追悼のつどい」を開催するように変更し、今年度は、その第六回目で、9月10日（土）に開催されました。

昨年から本年夏までに、ご逝去された遺族の方々に連絡いたしましたところ、29家族、49名の参列をいただきました。本会からも理事多数が参列しました。

当日は「茗溪会館」二階に祭壇を設け、遺影のみの掲示参加の22名を加えて51名の遺影が飾られました。

式は午前11時に始まり、参列者一同が遺影に黙禱後、西野虎之介理事長が「追悼の辞」を述べられ、挨拶されました。続いて来賓として筑波大学学長代理として西川潔副学長が挨拶されました。その後、一同が献花し、式は終了しました。

12時からは会場を四階に移して「懇談会」が開催されました。西野理事長の挨拶に続き3人の遺族と1人の教え子からスピーチをいただきましたので、その一部を紹介します。

故 山本 良一様（昭和7年農教卒）



孫 山本浩司様

祖父は今年の1月1日に百才で亡くなりました。長寿だったので親類が全員集まりました。大阪の茨木中から台北師範学校を経て農教に進みました。教員としては堺中学、茨木高女で教え、その後は茨木市議を4期16年勤めました。農業を営む傍ら、台湾の小学

校とつながりを持ち「台湾とのかけはし」という本も出しました。祖父には中国・台湾・沖縄に連れて行ってもらいましたが、行く先々で博物館に連れて行かれ、いつも研修旅行でした。

晩年は大阪万博の跡地に「科学博物館」を建設したいということに情熱を傾けましたが、実現できなかったことが残念です。孫として誇りに思える祖父でした。

故 岡本 敬二様（昭和23年文東史卒）筑波大学名誉教授



長女 成田 薫様

父は大変お酒が好きでした。また、大変元気で89才までスキーをしていましたし、筑波大学退職後に学長に就任しました「上武大学」が今年1月箱根駅伝に出場しましたので箱根まで行き、応援しました。このあとに、お話いただく大藪さんは教え子というより家族同然で、父がなくなった今、私にとってお父さんみたいな方です。

教え子 大藪正哉様（32教大哲 35院修東史 40院博東史）



筑波大学名誉教授

岡本先生には大学院時代から大変お世話になり、筑波大では先生のもとで助教授を勤めました。先生は弱冠38才の時に「満文老檔」（1607〜36年までの清朝が中国に関する前の詳細にして大部の記録で東北アジア史の研究に欠くことの出来ない根本史料）編集部注）を翻訳するという研究で学士院賞を受賞されました。先生はお酒が大好きで、筑波でのお住まいが近いこともあり、いま、茗溪会の副理事長をやっておられる江田昌佑先生と三人でよく飲みました。

故 館岡昭之助様（昭和25年大教卒）長女 伊藤みどり様



父は秋田県横手中から東京文理科大学教育学科に進み、卒業後は秋田県教育委員会を経て、昭和29年から55年まで秋田県立秋田高校に勤めました。

体操部顧問として活躍した父は昭和28・29年に引率した国体高校男子の秋田県選手団には父の教え子に混じって遠藤幸雄選手もいらつやいました。その方々を指導し引率したことは父の誇りでした。

いつか地元でインターハイをという熱意が実って昭和32年に実現しました。父の関係した「体操競技」は選手の得点の集計に手間取り、選手・監督に大変ご迷惑をかけたのに、誰一人感情を害することもなく、むしろ労をねぎらってくれましたことは、父にとって生涯忘れることが出来ないことだったようです。

その後、スポーツ施設の会館長、六郷高校長、秋田東高校長を経て、62年3月に公立高校の教職生活にピリオドを打ちました。その後72才まで私学に勤めました。

病気であった母の看病も考えて、私の住む京都に転居してからは、厳格な父が、孫の前では普通のおじいさんで、少年野球の試合やバレエの発表会を見に行きました。父が平成22年1月に亡くなった時にいただいた弔電のなかで、秋田高校体操部OBの方から「先生には大変お世話になりました。なかでも昭和36年の神奈川県のインターハイの折に、練習会場から大会会場が離れていて、出場時間がせまっているのに、タクシーがつかまらなくて困りましたが、外国人が運転するキャンピングカーが通りかかった時に、流暢な英語で交渉して、会場まで乗せてもらい間に合うことができました。」とありました。母が亡くなり、平成21年に遠藤幸雄さんが亡くなったのは父にとってショックだったようでした。リハビリ専門の病院で、立つことも座ることも出来ないのに、最後までアスリート魂をみせ続けて、平成22年に旅立ちました。

# 茗溪学園だより

## 茗溪会キックオフ講演会 (GETプロジェクト・Tプログラム)

本校の「GETプロジェクト」最初の活動が7月に行われました。3日間の集中プログラムで、中学1年から高校2年までの全生徒が参加し、博物館見学、野外調査活動、実験・実習、大学や近隣研究所の先生方の講演会、個人課題研究中間発表会などの活動がそれぞれの学年ごとに展開されました。

中でも特に高校1年のプログラムは、筑波大学と茗溪会筑波大学支部の先生方のご協力のもと、「茗溪会キックオフ講演会」と銘打たれ、大学で学ぶことや研究することについて、大学の教授陣や学生（本校の卒業生も含まれている）の皆様と直接お話をすることができるという内容でした。これは、GETプロジェクトのT（T(kuda)）プログラムの核になる部分として位置づけられたものでした。



講演会(全体会) 大学で学ぶとは？佐藤忍先生

午前中に全体会、午後から分科会という二部構成とし、全体会では、まず大澤義明先生（筑波大学教育社会連携推進室長）から高大連携についてのお話をいただきました。続いての講演は、文系と理系のそれぞれについて、大学で学ぶこと、全体像を理解できるように組み立てられました。文系については副



講演会 大学で学ぶとは？

が「サインは必要か」という題で、中田和人先生が「ミトコンドリア」についての講演をしてくださいました。午後の分科会は、筑波大学の学群を単位として9つの分科会に分かれて行われました。大学からは、14名の先生方と6名の院生・学生が協力してくださいました。生徒たちは、たいへん充実した1日を過ごすことができました。お忙しい中、時間を割いてくださいました先生方、本当にありがとうございます。筑波大学との連携活動では、個人課題研究発表会でご後援、指導をいただいておりますが、今回の企画は同窓会立の学校である茗溪学園ならではのものです。筑波の地の利を生かすのがTプログラムですが、筑波大学との繋がりを持った活動を、さらに深めていくことができると望んでいます。

### SSHに取り組みされている各高校の先生方へ

本紙の読者の皆さまの中には、SSHに取り組みされている高校の先生方がたくさんいらっしゃると思います。8月に神戸で開催されたSSH生徒研究発表会を見学してきたのですが、全国のそれぞれの学校で素晴らしい研

究が行われていることを目の当たりにしてきました。始めたばかりの私共としましては、多くの先輩校のアドバイスをいただき、より高い成果を生徒たちが実感し、未来の学びに繋がる活動にしていきたいと願っております。茗溪会のネットワークを活用させていただければと思います。本誌上を借りてお願い申し上げます。

### 平成24年度 生徒募集について

平成24年度の生徒募集活動は、11月19、20日に行うアジア4都市（香港、上海、シンガポール、バンコク）と北米2都市（ニューヨーク、ロサンゼルス）での海外現地入試「海外生特別選抜試験」から始まります。本校への応募者の多い北米からの受験者対応として、今年度からは北米入試会場を2会場としました。

本校会場での入試日程は下表の通りです。

今後の広報活動としては、11月6日に学園説明会を予定しています。また、個別の学校見学などのご要望にも対応しておりますので、直接、電話やメールなどで申し込んでください。お知らせ合いの方にもご紹介いただければ幸いです。募集要項など入試に関する問い合わせは、本校の入試担当および広報担当にメールなどでお寄せください。メールアドレスは、本誌裏表紙の広告にございます。

| 入試日程  | 中 学    |        |        |         | 高 校   |        |          |
|-------|--------|--------|--------|---------|-------|--------|----------|
|       | 推 薦    | 自己推薦   | 海 外 枠  | 一 般     | 推 薦   | 海 外 枠  | 一 般      |
| 募 集 数 | 80名    | 10名    |        | 135名    | 15名   |        | 25名      |
| 試 験 日 | 12月23日 | 12月23日 | 12月23日 | 1月8日    | 1月9日  | 12月23日 | 1月28日    |
| 試験科目  | 国、算、面接 | 国、算、面接 | 国、算、面接 | 国、算、社、理 | 面接    | 英、面接   | 国、数、英、面接 |
| 合格発表  | 12月25日 | 12月25日 | 12月25日 | 1月10日   | 1月10日 | 12月25日 | 1月31日    |